

1 受賞団体・個人の名称

いまばりたちばなゆうきのうぎょうけんきゅうかい

今治立花有機農業研究会 (愛媛県今治市)



(問い合わせ先)

0898-23-0246 (今治立花農業協同組合)

(経歴)

「子供達に安全な食を」との思いから学校給食へ有機農産物を供給するため研究会を昭和57年に設立。現在、小中学校5校に供給し、給食の野菜に占める有機農産物の割合は50.5%。地域の有機農業リーダーとしても大きく貢献してきた。

(受賞時の経営内容) 水稲、野菜、柑橘、鶏卵 6.3ha、農家戸数9戸

2 生産面の取組

有機JAS規格で仕様が認められている農薬も一切使用していない。

・土づくりでは、家畜の堆肥に同量の籾殻を混合して2~3年間熟成させたものを土作りに利用し、追肥には米ぬかや油粕を施用している。

また、緑肥による土づくりにも取り組んでおり、ナタネ等を輪作し5月に鋤き込みを行っている。

水稲栽培では、プラグ育苗による成苗・深水栽培を行っている。安定した栽培技術として地域に広く普及している。

・土着天敵が繁殖しやすい環境づくりと、植付間隔を広く取り風通しを良くすることを基本としている。また、経験的に作物が小さなうちに害虫被害に遭わないよう播種時期を設定している。

・作物の持つ生育力を十分に発揮できる環境づくりに務めている。芽の整理や土寄せ、中耕などの管理作業を早めに行い、作物の生育の変化を見逃さないように心がけている。



3 経営面の取組

有機農産物の主な出荷先は、学校給食と愛媛有機農産生活協同組合である。

学校給食へは、子供たちに安全なものを食べさせたいとの目的から慣行農産物の市場相場の最高値に準じた価格で供給。集出荷は研究会の会員が直接調理場に配達しており、出荷販売コストの削減がなされている。

愛媛有機農産生活協同組合とは年2回、価格の取り決めを行っており生産コストを反映した価格が確保できている。この愛媛有機農産生活協同組合は研究会が中心的な役割を果たして設立した生協。

これらの取り組みから、慣行農業より同等以上の所得が安定して得られている。

4 取組の成果

研究会の活動は27年にわたり、学校給食への有機農産物の供給では、美味しいという評判の給食を食べる中で、地域でその食材が生産される圃場や生産者を普段から身近に感じ、感謝の心を持って「食べる」ということに結びついてきている。

また、昭和57年に今治地域で最初の有機農業の生産者組織として発足して以来、地域の有機農業のリーダーとして販路の確保や栽培技術の確立と普及、人材育成に努め、全国有数の有機農業の先進地域への発展に大きく貢献した。

5 地域社会への貢献

慣行農業の圃場に囲まれている現状で、自分たちの圃場は多様な生物の「ゆりかご」として、次の世代に引き継ぐべきものと考えている。このような考えのもと消費者を交えての生きもの調査に取り組んでいる。

